時事新報

第千五百三十三號
明治二十年三月十一日　金曜日（乙亥）
舊丁亥二月十七日
日出午前六時十九分　日入午後六時二分
月出午後七時四十六分　月入午前六時三十一分
滿潮午前七時三十二分　午後六時五十五分
（西曆一千八百八十七年）

時事新報

移住の氣風

甲國人民が乙國に赴きて生活をなすを移住と云ふ此移住は人民を各處に散在せしむるの手段にして人民既に散在すれば其文物亦これと共に傳播するは勿論なりされば方今西洋各國の人民が獨り全世界に散在して其政敎風俗の特に滿天下に傳播せしは其人民最も移住氣風に富めるが故ならん蓋し古來人民が移住する由縁は種々ありて一樣ならず太古には人民獨り亞細亞の中央に住居せしも歲月と共に繁殖して土地既に之を容るゝに足らず故に其人民四方に移住して五大洲中到らざる處なく以來數千年の星霜を過ぎ今日に及びては文明の人あり野蠻の民ありて容色亦幾種に分かれたれども其根源は皆一なりされど人民移住の權輿、世界文明の發端とす其後希臘の世には人民多數相結び隊と組みて他處に赴きしに都府を立て或は既に他族人民あれば之を征伏して其土地と押領しさる後、一人を推して首長に任じ皆其命令に從ふまと恰も獨立國に似たれども其政敎風俗必ず本國の舊を守りて敢て變更せず且本國を尊敬して常に同盟せり此新獨立國は追々盛大に赴き且其人民皆ね富有となるが爲めに本國に在る少壯輩は競ふて之に倣ひ地中海岸は過半希臘同盟の土地となれりフエネシヤ人民が大西洋岸黑海地方及び英國諸島迄も散在したるは亦希臘人民移住の方法に從へるなり

又羅馬の世には政府が兵力に頼りて四隣を蠶食し之と本國の版圖に加へて後、人民をしてこゝに移住せしめたれば其人民尙本國の戶籍を離れずして本國の法律に從ふを常とせり故に羅馬は全世界を統合して一大帝國を成さんとせるは勢にして其强盛なるに當りては西洋各國大槪皆之に歸屬せしかども更にこゝに一大移住の端を開き之が爲に大帝國も遂に廢滅に歸したるは時運の變遷と云ふ可し蓋し其一大移住とは何ぞや未開の人民が亞細亞地方より歐羅巴に侵入して他人の土地を奪ひ、之を奪はれたる歐羅巴の未開人民は更に他に侵入して他人の土地を奪ひ、互に奪ひ又奪はれて一時歐洲の全面を騷擾し羅馬の威力も之を防遏する能はず終に所謂暗黑世界となりしもの是なり、歲月を得るに從て騷擾も漸く定まり各地に各種の社會を組織したるもの即ち今の西洋各國にして爾來各國相互に移住の事なきにあらずと雖ども記すに足る可きものなく唯其の成跡の大にして全世界に影響を及ぼしたるものは亞米利加發見後の移住なる可し抑も此新世界の發見せらるゝやメキシコ及びペーリユーに金銀坑の豐富なるものありければ西班牙人の如きは鑛山の利を目的として之に走り數年の間を以て巨萬の財を貯へ錦衣故鄕に歸りて餘生の安樂を全ふせんとするの外に念あるものなかりしかども英佛荷蘭諸國の移住者は政府と屬地を亞米利加に開かんとの目的を以て自國の人民に移住を獎勵せると同時に歐洲の風采甚だ穩ならず凶歉戰爭打續きて人民その生を安んせざる者を擧げて西の方新世界を望見せば生活に苦辛なくして累を避ずることも容易なりと聞く誰れか心を動かさゝる者あらんや歐民は政府の獎勵を待たずして自から奮て移住を企て其數、年一年に增加して遂に皆永久の居處を新地にトせるに至れり尋で濠太利亞を發見せしにこゝにも金鑛の富源あるが爲先ふ忽ち移住の端を開き千八百二十年より千八百六十九年に至るまで五十年間に露國及び西班牙の人と除き他は歐洲諸國より米濠兩地に移りたるもの八百二十二萬人の數なりと云ふ

右の如く古來人民が移住せる由縁は種々ありて一樣ならずと雖ども其自國の文物を天下に傳播するの成跡は同一なり希臘同盟の各國も羅馬所轄の屬地も皆其本國の政敎風俗を守りしが方今米濠兩地共に第二の西洋社會ならざるはなし斯く西洋各國の人民は古來屢々移住して其文物を滿天下に傳播せしむるに其他各洲の人民は皆故鄕に戀々として他處に赴き生活するの氣風なきは寔に惜む可きなり凡そ自國の文物と他處に傳播せしむるを喜ぶは人情の常にして例へば今の日本の儒者も佛者も其敎旨を全世界に宣布せんと欲するは西洋の耶蘇敎徒が滿天下の蒼生を一神主義に導かんとするに異ならず其心中の實望を叩き出さば共に大小の差別なかるべけれども耶蘇敎徒のみ獨り之を實行するは何ぞや當に宗敎のみならず凡ろ西洋起原の文物として日に月に其流行の區域と世界中に弘むる者なきも西洋各國の人民と他各洲人民との間に必ず大に異なる所のものあるが故ならん或人曰く西洋各國には人口繁殖して之を容るゝの地なし故に古來常に移住の氣風ありと此言も亦一理なきにあらず彼の太古人民の移住は姑く措て問はず其後希臘の移住も羅馬の移住も皆國內の人口大に增加せし後に始まれり殊に羅馬政府は貧民棄兒を絕たず屬地に移住せしむるも何此輩が多く本國に殘れるを苦慮せりと云ふ又方今西洋各國の人民米濠兩地に移住するも幾分か人口多くして土地少なきに由るまとならん社會に人口多く土地少なくして人民漸く衣食に窮するときは移住こそ最良の策なれ此外に救窮の手段なしと雖ども西洋各國の人民が移住の氣風に富むは未だ必ずしも此一原因のみに限らざるべしと思はる

今彼の印度は人口多く土地少なく人民槪ね衣食に窮するに支那も亦其國は英國に屬して人民に自主自由の權利甚だ乏しければ故鄕に居るも外國政府に支配せられ他處に赴くも亦別に異なることなければ其人民こそ盛に移住すべき筈なるに實際は全く之に反して國內に於てすら容易に一處より他處に轉住する者稀なるは其人民固有の性質に由て然るものと云ふべきのみ又支那人民は傍近各地及び南洋諸島に移住し近時亦亞米利加に移住する者少なからざれども皆少壯の男子が一時外國に在て財を儲へ再び本國に歸らんとするに過ぎず此外各洲人民は皆未だ移住の何物たるを解せざる者のみされば西洋各國の人民が多く移住するは未だ必ずしも人口多く土地少なきに限らざるや明白なり今亦二三の例證を擧げて其移住が政治上に出るにも非ず又戰爭凶歉の難に由るにもあらざるの例證を示さんに千八百四十七年より以後凡ろ五六年間、愛蘭蘭の人民が多く合衆國に移住せしは同年該地に凶歉の災ありて人民が衣食に窮しるるが爲めならんかなれども同時に日耳曼の人民も亦多く移住せしは決して凶歉の故にあらず尤も千八百四十八年日耳曼に改革の變ありしも成功せず人民其不快に堪へずして移住したる者とせんか[illegible]自由黨が勝を政治上に得て廣く人民に撰擧權を與へたれども其時には（千八百六十五年より七十三年まで）却て國を去る者多かりしこと怪しむ可けれ人民の移住は決して政治主義の如何に由らざると知る可し西洋各國中專制武斷の政治を以て有名なるは普魯士國にして然かも其政府は各國に先ちて人民に自由移住を許したるが故に自國の政治に苦しむ者は際限もなく外に出ることとなからんと思はるれども實際に於ては然らず千八百二十年より七十年に至るまで普國人の亞米利加に移住せしは僅に二十萬人なりと云ふ左れば西洋各國の人民が多く移住するはまれを其の人民固有の氣風と云はざるべからず

西洋各國の人民は移住の氣風に富めども其他各洲の人民は之に反す故に西洋各國の人民が獨り全世界に散在して其文物特に滿天下に傳播するは自然の勢にして其他各洲は人は之を默視するの外なきに似たれども左まで全く落膽すべきにあらず人文に開化野蠻の差こそあれ人種に黑白長短の異あそれ各洲は人民皆よく西洋の文明を傳へ習ふを得る以上は此移住の氣風亦傳へ習ひ難きにあらざるべし況して我日本に於てをや國を太平洋中に立て四面水を環らして土地に限あれども人口の增加には限なし限ある土地に容るゝは到底望むべからざる尙その上に國內に殖產工業の新に起るものなくして目下現に衣食に窮する者さへ少なからざれば此貧民を國外に移住せしむるは今日の急にして惟日本の文物を國外に傳播せしむるが爲めのみにあらざるなり

官報

○海軍省令第六號
明治十九年（三月）省令第八號滿期再役志願者取扱規則第二條中ニ左ノ一項ヲ加フ
明治二十年三月十日　海軍大臣伯爵大山巖
徵兵令ニ依リ徵集シタル卒ニシテ現役滿期トナリ再役志願ノ者ハ再現役年數（三箇年以上）ヲ定メ所屬長ニ願出可シ

○警視廳告示第二號
農商務省所轄下總牧場ニ於テ牝牛一頭炭疽熱ニ罹リ斃死シ其他同症ニ罹リタルモノ有之旨通知アリ畜牛者ハ此際豫防方注意スヘシ
明治二十年三月十日　警視總監三島通庸

○小學校授業生試驗並に免許手數料の件伺指令　小學校授業生免許に關する事務を郡區に取扱はしめ其費用を郡役所の經費より支辨する場合に於ては其試驗並に免許手數料は地方稅の雜收入へ受入れ然るべきやと去月二日山梨縣より伺出でたるに同二十五日內務大藏文部三省連署にて小學校授業生免許に關する費用を郡役所經費より支辨する場合に於ても其試驗並に免許手數料は國庫へ納入すべしと指令せり
（以上本年三月十日官報）

雜報

○技手派遣　遞信省にては曩に船舶通航の便を圖り豆州下田電信分局より神子本燈臺へ海底電線を敷設する事に決定し其實地檢査も既に濟みたるに付同省にては之れが工事に着手する爲め一昨日技手數名は工夫十數名と引率して該地へ向け出張したる由尙該線は下田分局より陸地を三哩の間架設まて夫れより海底に沈設する筈なりといふ

○河村正八氏　は曾て工部大學校に在て化學を修め其後內務省衞生局の技手と爲りて横濱試驗所に奉職せしが斷然辭職して海外留學を思立ち去年三月米國フイラデルフイヤの藥學校に入りて藥學を修め先頃て同府衞生局の藥舖開業試驗を受けてこれに及第し同年十一月同學校を去てミシガン州アン　アーボア　大學に赴き製藥學部の試驗を受けて本課第一年第二年の課程に及第し目下高等課に入て研究中なるが來る六月には卒業の得にて歸朝の後は藥舖の事業に從事する目的なりと云ふ

○經費取調　と設置すべき
○生徒行軍　期試驗を畢へ　よく神奈川縣　よし
○兵器局の名　よて軍艦の數　器の注文還る　にて技術官よ　請切にて皆於　引も切らず去　下製造の重な　水雷罐は回り　りたる分七八　デンペルトは　にて水雷船の　する者にして　り右は昨年二　おて其他は引
○越後鐵道會　し新潟縣下越　北越鐵道會社　潟より直江津　線路に聯接す　際彼の中山道　州と經て高崎　に有志者の企　即ち直江津よ　許可そるや否　散そるに至り　落して鐵道の　るよも容易な　江津間に鐵道　ば大に縣下の　人及び他の有　次郎岸宇吉小　社を設立せん　百萬圓の見込　は悉く通知あ　は在越後人の　既に殆んど擧　より直江津ま　設せんとする　あれば工事着　濱に沿ふて敷　有名の雪國な　越後中の最も　妨げらるゝ　同鐵道を敷設　り起工あ信濃　自餘は暫く川　全線の三分の　る條崎新潟縣　なるが兼て同　に山發する當　暫らく溜京す
○製撓買法　商務省へ輸　長貞臣氏赤　中より川京中